



ふじさわ

令和8年度 9月号 No.6
富田林市立藤沢台小学校
TEL 0721-28-3771
FAX 0721-28-6824
校長 阪上 佐智子

「心の中のメダル」がキラキラ輝く

長い夏休みが明け、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。私は子どもたちに「心の中のメダル」という話をしました。1学期の終業式では、勉強や行事、日々の生活の中で「自分は一生懸命やった」と思えることは、誰かが見ていなくても自分に贈る立派な「メダル」で、「自分で自分をほめよう」と伝えました。始業式では、この自分のメダルを大切にすることに加え、「友だちの心の中にあるメダル」を見つけて、言葉に出して伝えてほしいと呼びかけました。

自分の頑張りは、自分が一番よく知っていますが、それを誰かが「すごいね」「頑張っているね」と声をかけてくれたとき、そのメダルはキラキラと輝き出します。学校と家庭が同じ方向を向き、子どもの小さな頑張りを共に認めていくことで、子どもたちの自己肯定感が大きく育ちます。以下の3つの視点を参考に「メダル」を見つけてみてください。

1. 「一生懸命のメダル」(努力とプロセス)

結果だけでなく、そこに至るまでの姿勢に注目します。

- 「難しいことでも、最後まであきらめずにやりきったね」
- 「昨日より良くなろうと工夫しているのが伝わってきたよ」

2. 「思いやりのメダル」(優しさと貢献)

周囲への配慮や、誰かのために動いた行動に注目します。

- 「下の子に優しく接していて、温かい気持ちになったよ」
- 「手伝ってくれたおかげで、本当に助かったよ。ありがとう」

3. 「継続のメダル」(日常の当たり前)

毎日続けていることや、当たり前と思われがちな行動に注目します。

- 「今日も元気に挨拶をしてくれて、明るい気持ちになったよ」
- 「宿題(自分の役割)を忘れずにやり続けていて頼もしいね」



周りの大人が、子どもの頑張りを言葉で「可視化」してやることで、子どもたちも自然と「友だちのメダル」を見つけれられるようになっていきます。また、子どもだけでなく、大人も、ぜひご自身の「メダル」や周りの方の「メダル」を見つけて、認め合ってください。

校長 阪上 佐智子